

柳津小学校だより

# 鳴神山



2021, 1, 15 No. 40

柳津町立柳津小学校

発行者 校長 星 潔



## 3学期も残り45日!

3学期がスタートして今日で登校日が5日となりました。残りの登校日はあと45日です。本当にあっという間に日々が過ぎていきます。大切な1年間のまとめの3学期。1日1日を大切に、子どもたちには学校生活を送ってほしいと思います。特に6年生は小学校で過ごせる日々が45日です。この45日をどう過ごすかは本当に大切です。悔いを残さないチャレンジを心の底から期待しています。

そんな中、新型コロナウイルスの猛威がまた押し寄せてきています。内堀知事は12日(火)に福島県は「ステージ3相当」であるとの認識を示しました。2月7日(日)までの期間、不要不急の外出自粛(特に午後8時以降の徹底)と緊急事態宣言対象地域を始めとする感染拡大地域との不要不急の往来自粛の要請が県民にありました。あと45日、子どもたちが充実した学校生活を送ることができるように、保護者の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 再確認「感染症対策の基本事項」

### 1 児童の持ち物

- ・清潔なハンカチ、ティッシュ ・マスク ・マスクを置く際の清潔なビニールや布等

### 2 基本的な感染症対策の徹底

<家庭へのお願い>

- ・**毎朝の検温**を含めた登校前の健康状態の把握にご協力ください。
- ・**体調が悪い場合は、無理をして登校せず自宅で静養**してください。**37.5℃以上の場合**は**欠席**させていただきますようお願いいたします。なお**発熱等の風邪症状が見られる場合には欠席日数とはせず、出席停止**として扱います。
- ・**手洗い、消毒、マスク着用**を徹底させてください。
- ・抵抗力を高めるために「**十分な睡眠**」「**適度な運動**」「**バランスの取れた食事**」にご配慮ください。
- ・**本人はもちろん、同居のご家族が感染した場合や濃厚接触者となった場合は学校までご連絡**ください。また**児童やご家族がPCR検査を受けるようになった場合も、ご連絡**ください。**結果が出るまでは出席停止扱い**とします。

(差別や偏見につながらないように、全職員で対応いたします。)

ご協力よろしく申し上げます。)

<今回のレベルⅢ相当を受けての追加のお願い> (現時点では2月7日までの予定)

- ・**同居の家族に発熱等の風邪症状が見られる場合も欠席**(出席停止措置)させてください。**同居のご家族の健康観察**もよろしくお願いいたします。

<学校の対応>

- ① 基本的な感染症対策を徹底します。
  - ・家庭と連携した検温と風邪の症状の確認を徹底します。
  - ・多くの児童が触れる場所等について**引き続き毎日消毒を実施**します。
  - ・登下校を含む教育活動中は、児童と教職員はマスクを着用します。(十分な身体的距離が確保できる場合、体育科の授業など一部の教育活動を除きます。)
- ② 3つの密を回避します。
  - ・教室等の換気を実施します。
  - ・できるだけ広くした座席の間隔の設定を継続します。
  - ・給食中も間隔を取り同方向を向いて食事をします。
  - ・**2月7日までは「児童が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等」「近距離で一斉に大きな声で話す活動」など感染リスクの高い学習活動を一部制限**します。

**柳津小学校打倒コロナウイルスの合言葉**

**「うたしてマスク」(うがい, 体温計測, 消毒, 手洗い, マスク, 換気)を徹底します!!**

## 校長のひとりごと

コロナ禍でステイホームのお正月。みなさんはどのようにお過ごしになられたでしょうか？会話を楽しんだり、DVDを見たり、テレビを見たり・・・各ご家庭それぞれのお正月をお過ごしになったと思います。星家はやっぱりお正月の風物詩「箱根駅伝」です。今年の大会前は3強と言われていた青山学院大学、駒澤大学、東海大学を中心とした優勝争いが展開されるという予想が多かったようです。しかしふたを開けてみると往路では創価大学が2位の東洋大学に2分14秒の差をつけて見事優勝。これには驚きました。3強の一角、青山学院大学は首位と7分35秒差の12位に沈みました。これにも驚きました。3強では駒澤大学が3位で東海大学が4位。逆転優勝を狙える位置にはつけました。

そして運命の復路のスタート。10000m平均タイムで出場校トップの駒澤大学が8区までには逆転して優勝するのではないかというのが私の予想でした。しかし創価大学の魂の走り。これにも驚きました。最終10区を残し3分19秒差。これは創価大学の初優勝だと確信しました。全く優勝候補にもあげられていなかった創価大学の優勝。これは本当にすごいことだと思いました。しかしスポーツの世界は何と残酷なことか。アンカーで駒澤大学が不可能と思われた3分19秒差を大逆転しての優勝となりました。この筋書きを予想していた人はいなかったと思います。私は創価大学の選手がかわいそうで見ていられませんでした。初優勝を逃したレース後、「ごめんなさい。全部受け止めて来年強くなって戻ってきます。」とコメントした創価大学のアンカーの記事を読みました。本当に胸の中を思うと切なくなりました。しかしもし私ならば、陸上を辞めることが頭をよぎるのではないかと思います。レース後に「全部受け止めて来年強くなって戻ってきます」とコメントできるなんて、なんて強いハートの持ち主なんだと感動しました。また往路12位に沈んだ青山学院大学も「王者の意地」を見せての復路優勝。これにもあきらめない強い心を感じました。私たちはともすると子どもたちに成功体験を積み重ねたいと思ってしまいます。しかし、失敗体験や挫折から這い上がろうとする強い心は本当に大切です。長い人生、成功だけで終わるわけがありません。失敗を恥ずかしがり逃げてしまったり、失敗で心が折れてしまったりするのではなく、失敗から何かを学び、また次への挑戦心を持てる子どもたちを育てていきたいと、このコメントを聞いて強く強く思いました。そのためには何と言っても私自身が挑戦する心を忘れてはいけないなと思いました。